



総合体育館の再開

大友 克寿

問 震災復旧工事の完了により、一般利用が再開されるが、運営についての基本方針を伺う。

教育長 基本方針は、震災前と基本的に変わりません。市のスポーツ振興と、市民のスポーツを通しての健康づくりの拠点として利用していただきたいとの運営方針です。今まで以上に、一人でも多くの市民が競技スポーツ、健康づくり、体力づくりの施設として利用していただきたいと考えます。

利用者を増やす考え方は

問 再開に当たり、新しい設備や器具類はあるか。

教育長 新たな設備等の整備は行っていませんが、既存の設備の中で、メインアリーナ、サブアリーナの床面を全面研磨して再塗装を行いました。照明器具も工事に合わせて全て交換しています。

問 再開に当たり、運営体制はどのようになっているか。

教育長 管理運営体制については、震災前のような体制で実施できると、嘱託職員や臨時職員を

募集し、利用者に影響のないように対応していきたいと考えます。

問 新たな利用者を増やす取り組みについてはどう考えているか。

教育長 現時点では、特別な計画は考えていません。再開後は利用者が利用しやすいように、サービ

問 再開を契機に市民スポーツの拠点として充実を図る必要があるが、具体的な取り組みはあるか。

教育長 復旧工事に合わせ、施設の整備を行いましたので、震災前よりは充実を図ったものと考えています。主催事業については、駐車場に課題もあることから、利用者の増加を推進することは難しいと考えます。

問 交流人口の増加等を目的に、各種大会やさまざまなイベントの誘致を考へてはどうか。

教育長 イベント等の誘致については、今のところ考えていません。まだ震災復興途上ということも踏まえながら、現在の状況で体育館の利用の充実に努めていきたいと考えます。



再生可能エネルギー

飯塚 悦男

問 農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律が成立し、11月22日に公布された。再生可能エネルギーについて見解を伺う。

市長 太陽光、風力、小水力、バイオマス等の発電があるが、国全体として、新しいエネルギーが必要であり、外国に頼らない、危険でないものを使っていかなければならないと思います。

地域主権を目指すために

問 地域主導、地域主権を自治体が目指すためにも、自然エネルギーを活用すべきではないか。

市長 地域の特性を生かすのは、地方分権という形になり、基本計画、整備計画を立て、進めていきたいと思っています。

問 農地に太陽光パネルの間隔をあけて設置し、作物栽培と売電を両立する方法「ソーラーシェアリング」についての見解を伺う。

市長 農業だけで収入を確保するのは難しい状況ですが、農外収入

を考えていく中で、農地を利用して、地球環境に優しいことであれば、市として対応していきたいと思っています。

問 もみ殻を燃料化したモミガライトがある。収穫祭で実演し、市長も見学した。考えを伺う。

市長 もみ殻を有効活用する自然エネルギーの一つとして注目していきたいと思っています。

問 ハナトピア岩沼は農業の活性化のために設置された。ハナトピア岩沼を自然エネルギーの市民の学習の場、情報発信の場として位置付けをしてはどうか。

市長 具体的に取り組むのは難しいと思いますが、担当の方で検討したいと思っています。

問 ハナトピア岩沼に自然エネルギーを活用した電気自動車充電スタンドの設置を検討してはどうか。

副市長 宮城県次世代自動車充電インフラ整備ビジョンがあり、各自治体につくる計画で岩沼にもできる予定です。